

和紙研究会の活動事例

デザイン・工芸部 恵原要 和紙研究会

和紙研究会は、工業技術センター「ハイテク研究会」の一つとして伝統的な手漉き和紙の継承者を含む工芸・デザイン・建築・インテリア・表具・漆工芸・染織の専門家が集まって平成8年度に発足し、これまで和紙に関する情報交換や、メンバー数名による作品の発表展等を行ってきました。

和紙という素材で結ばれたメンバー達が、平成11年度に県中小企業団体中央会が窓口となっている「多角的連携組織開発支援事業」を受ける機会を得ましたので、これに関しての活動を紹介します。

製品開発に当たって、地域資源の活用をテーマの一つに上げ、これまで主に取り組んできたカジノキの繊維による紙だけでなく、サトウキビの絞り粕であるバガスの利用や大島紬の技法である泥染めの活用など和紙製造へいろいろな要素を取り込んで、新しい可能性を求めました。

製品開発の個々の製作に当たっては、会員間の技術の交流に主体を置き、2人、或いは3人で取り組む物から、2つのグループに分かれて4、5人で取り組んだ茶室まで、会員間の様々な技術の組み合わせで製品が生み出されました。

和紙研究会参加企業

ホワイトギャラリー ・ 和紙ギャラリー
鶴田手漉和紙 ・ 菖蒲学園／工房しょうぶ
橋口漆工房 ・ 島木染織工房 ・ 田代表具店
小森昌章建築設計事務所 ・ 淡 オフィス

成果普及事業において、「日本文化デザイン会議」が鹿児島で開催されるのを機に、その関連イベントに登録し、展示会場を港の古い石蔵に設定し、その独特な雰囲気的空間を考慮して計画を推し進めました。展示会では、ガラスと和紙、漆と和紙の取り合わせによる、性格の異なる2つの茶室を会場の中心にしつらえ、不思議な空間を体感できる場を演出しました。

短い準備期間にもかかわらず、照明、器、衣類から建材まで多様な製品が開発され、メンバー全員の力を結集した和紙の可能性を提案する展示会となり、二千名もの見学者がありました。

また、かごしまデザインフェア 2000 コンペにおいて「和紙の茶室」は、大賞を受賞しました。

今後、さらに研鑽を積み、外部からの要望にも応えられる和紙に関する技術集団、造形集団へと発展することを目指したいと思います。

製品開発会議（検討会）

和紙の茶室 TAIAN（展示会場）